

2期目の就任となりまして、4年間を振り返っての感想をお願いします。

今までの4年間の中で一番問題となったのは、国の三位一体の改革で、交付税が急激に減り、佐渡市へ非常に大きな影響を与えたことです。

それに対応するには、行政改革を平行的に行わなければならないことが、市民の皆さんに理解していただくことが不十分であったという反省があります。

そのために、色々な地域の状態を聞き、市の取組みをお話しようとミニ対話集会を2年間に渡って80回行ないました。さらに、昨年は各地域を回って一日市長室を行いました。

今は、新しい仕組みや種を撒いてきたものが次第に芽を出してきていると思っています。

2期目の抱負をお聞かせください。

1期目と同じように、「美しく、環境にやさしい島づくり」が基本です。

まず、美しい島づくりでは、今年秋にはトキを自然に還すという、今までに経験のない大きな事業に取り組みます。

同時に、美しい島づくりについては景観条例を制定して美しい景観を取り戻します。

もちろん観光事業も一緒になって行おうとしています。トキの放鳥や、世界遺産登録を目指すことによつて、非常に大きなきっかけができました。

中長期的には、子どもをたくさん産んでいただけるような、もしくは育てやすい環境を作ろうと考えています。

今年の4月に専門学校が開校しましたが、今後は、就職先の模索や、コールセンターなどの誘致に一生懸命取り組んでまいります。

組んでまいります。

そのほかに特に力を入れて行きたい施策などありますか。

「美しく、環境にやさしい島づくり」の中で、自動車の燃料となるエタノール米は、転作する田んぼで作る、あるいはバイオマスエネルギーの積極的な活用を進めたいと考えています。

レジ袋ゼロ運動については、今年はその条例にも取り組めます。

朱鷺と暮らす郷づくり認証制度では、生物多様性に見合うような田んぼには一定の補助金を支給し、そこでとれた米を高く売れるような仕組みを作ろうと考えています。

交通政策では、海の航路を安くて便利に使えるようにしようと考えています。また、路線バスの運賃が高いので、タクシーまで含めて佐渡の交通を便利

にするような仕組みを作り、お年寄りも少ない負担で買い物に出られるようにしようと考えています。飛行場の問題については、かなり地権者のご理解をいただけたと思っています。

市民のみなさんへメッセージをお願いします。

合併して以来、地震が2回もあり、大きな風浪被害もあって佐渡観光が落ち込んでいます。しかし、佐渡には文化的な、あるいは自然の大きな観光資源が眠っています。未開発な観光資源を、ぜひ日本中のの人に見ていただくような機会づくりや宣伝を行い、たくさんの方に佐渡に来ていただくとともに、地場産業の振興を進め、市民の皆さんと力を合わせて佐渡市の活性化を図りたいと思います。よろしくお願ひします。

市長 就任インタビュー



高野 宏一郎
(たかの こういちろう)

昭和14年佐渡市生まれ。慶応義塾大学商学部を卒業。平成16年に島民念願の一島一市となった佐渡市の初代市長に就任。「美しく、環境にやさしい島づくり」を目指して、トキの野生復帰を見据えた循環型社会の形成、観光振興、空港問題、佐渡金銀山のユネスコ世界遺産登録、医療福祉介護問題、特区などに取り組んでいる。平成19年6月から全国離島振興協議会会長を務める。